

# 少年非行

## 進む低年齢化14・15・16歳で七割を

### 非行の兆しを知ることが防止への道

連日のように、少年非行がニュースで報じられています。この深刻な状況は、数字の上にも、はっきり表われています。

まず第一に挙げられるのは、刑法犯少年、つまり刑法に触れる罪を犯した十四歳以上、二十歳未満の少年が増えていることです。五十六年一月から十一月までに補導された少年は十六万八千人を超え、前年の同じ時期に比べて約一万八千五百人、一・二倍強の増加率になっています。

これを年齢的に見ますと、最も多いのが十四歳、続いて十五歳、十六歳の順で、これら三つの年齢を合わせると十二万人を超え、全体の七割以上を占めています。

このように、低年齢化、とりわけ中学生の非行増加が一層目立ってきたのが、最近の特徴的な傾向です。

非行の種類で最も多いのは窃盗。単純な動機で万引きをしたり、自転車などを盗む、いわゆる「遊び型非行」が依然として目立っています。また、これまで年々減っていた粗暴犯、知能犯が増加に転じているのも新たな傾向で、校内暴力事件の増加はその表われの一つです。



少年非行の防止は、今や国民的な課題と言ってもいいでしょう。しかし、少年たちは、ある日突然非行に走るわけではありません。注意していれば必ず見いだせる、前触れがあります。例えば、子供の言葉遣いや態度

に変化が見られた場合です。何かというと、投げやりな言葉を吐いて、真面目な生き方を軽蔑(けいべつ)するような態度を見せたり、すぐにわかるようなうそを言ってそれが親や先生に知れても平気というような様子が見られる時など

## 父親の機嫌

### 詫摩武俊

(東京都立大学教授)

非行少年として補導されたものが、自分の育った家庭を顧みておもしろかったとか、楽しかったということはあまりありません。豊かに、不自由のない生活をしていたことを認めながら、その家庭の雰囲気は冷たく、潤いがなく、要するにつまらなかつた、ということが多いのです。

さらにくわしく聞いてみますと、家庭での父親がいつも不機嫌でささいなことでも怒ったり、むっと黙っていて心の通い合う話などできなかったといえます。

父親は多くの場合、その家庭の中で年齢的にはもっとも上で、生

は、非行化への注意信号がともっていると考えられます。

また、親のよく知らない友達がいっつの間に加増えていて、名前を聞いてもあいまいな返事をするとか、外出先や帰宅時間がはつきりしなくなってくることも、要注意です。そのほか、食べ盛りなのに、夕食に手を付けないことが増えたようなときは、学校帰りにスナックなどに寄り道している場合が多いようです。

生活時間をキチンと守らせ、友達つきあいについても、時には親同士が連絡をとって確認し合うなど、子供の生活の輪郭をしっかり

つかんでおくことが大切です。

一方、非行に向かう初期の段階で、少年たちのほとんどが喫煙を経験します。ポケットにたばこが入っていたり、においがするようなどきは、要注意です。もし、近所の少年がたばこを吸っている姿を見かけたら、ひと声かけて注意してやりましょう。

大人がしっかりとスクラムを組んで、早いうちに非行の芽を摘み取るようにしたいものです。

※長門古市駅前・黄波戸駅前に悪書追放ポストが設置されていますのでご利用ください。(十五ページ参照)

業上の地位など忘れて機嫌よく心を開いていけば、自然に子どもとの心の交流もできてきます。

家庭の中で対話が必要だといわれ、それを促すために標語までつくった市役所もあるそうです。しかしお互いに心を温かにするような対話というものは「さあこれから対話をしよう」といって始まるものではありません。お互いに好意をもっているものが気持ちよく話すことによって心の理解は深まるのです。このことは親と子についても同じようにあてはまります。

父親が出張で不在だから楽しいという家庭よりも、不在だからつまらないという家庭の方に非行少年は出にくいのです。

家庭での父親はまず機嫌がよく子どもから好かれていることが必要なのです。